

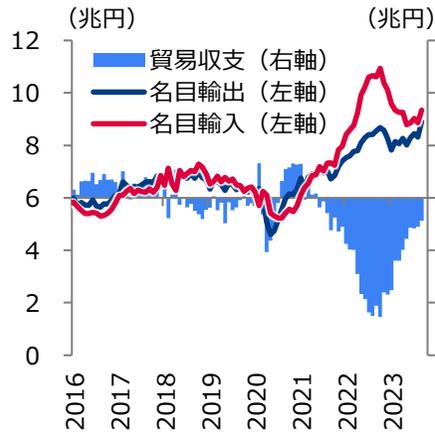
日本

貿易統計 (2023年9月)

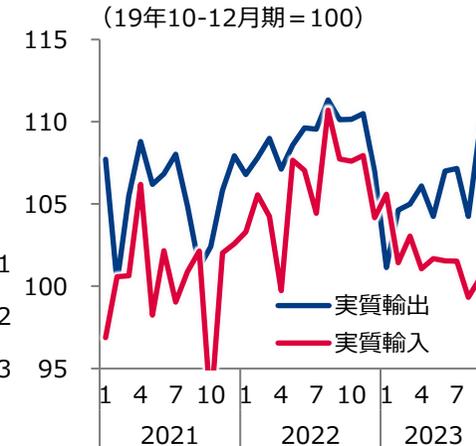
米欧向け輸出の強さが続くなか、中国向けに持ち直しの動き

政策・経済センター
堂本健太
03-6858-2717

1 名目輸出入・貿易収支



2 実質輸出入

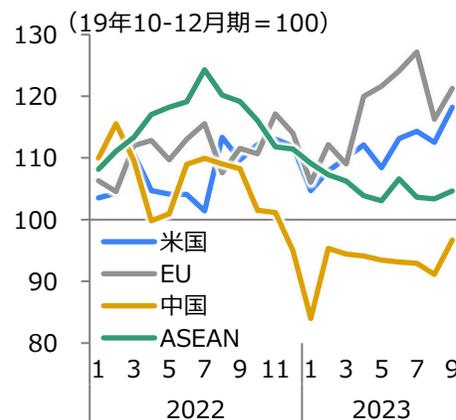


評価ポイント

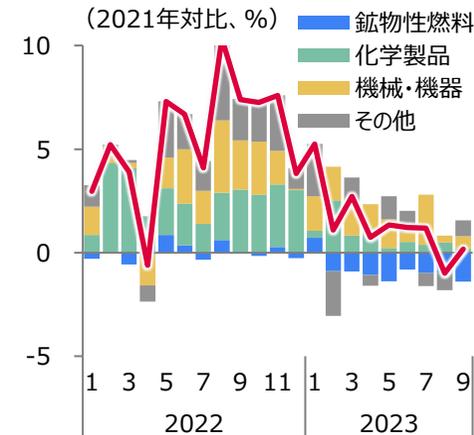
今回の結果

- 23年9月の貿易収支（季調値）は、▲4,341億円と28カ月連続の赤字となった（図表1）。ただし、名目輸入の増加傾向が一服するなか、名目輸出が持ち直していることから、貿易赤字幅は22年半ば頃をピークに縮小が続いている。
- 価格・為替変動の影響を除いた実質輸出（当社試算、季調値）は、9月前月比+5.2%と2カ月ぶりに増加した（図表2）。実質輸入は9月同+1.2%と増加したものの、輸出に比べて増加ペースは緩慢にとどまる。
- 7-9月期ベースでみると、実質輸出は前期比+1.2%、実質輸入は同▲1.0%となった。サービス輸出入にも左右されるが、7-9月期の実質GDP成長率において、外需（純輸出）が2四半期連続のプラス寄与となる可能性もある。

3 実質輸出（地域別）



4 実質輸入（財別）



基調判断と今後の流れ

- 貿易赤字は、名目輸入の増加傾向一服、名目輸出の持ち直しを受け、縮小傾向にある。もっとも、為替レートが円安傾向で推移していることに加え、原油価格は中東情勢の混乱などを背景に高値圏で不安定な値動きが続いており、貿易赤字の縮小傾向が続くかは不透明である。
- 実質輸出は、振れが大きいものの、持ち直し傾向が続いている。米国・EU向けが堅調を維持するなか、中国向けが9月に回復傾向を強めた（図表3）。先行きは、海外中央銀行の金融引き締めの影響から米国・EU向けの減速が見込まれるものの、中国・ASEAN向けが持ち直すことで底堅い推移を予測する。24年にかけて半導体サイクルの好転が見込まれることも、輸出の下支え要因とみている。
- 実質輸入は、足許で減少傾向にある。財別にみると、鉱物性燃料の減少や化学製品（新型コロナワクチンを含む）の増加一巡の影響が大きく、環境変化から輸入水準が切り下がった可能性が高い（図表4）。先行きは、個人消費や設備投資の回復に伴い、増加傾向に転じると予測するが、22年並みの水準に急速に回帰する構図は想定し難い。